福井県立美術館 2014

美術館だより

MUSEUM NEWS Vol.141

contents

〈展覧会紹介〉「生誕110年記念　棟方志功展」 [2～3]
―青森県立美術館・棟方志功記念館コレクションによる―
〈展覧会紹介〉「生誕100年記念展　小野忠弘の軌跡」 [4]
〈イベント報告〉「空前絶後の岡倉天心展」 [5]
〈館蔵品紹介〉下村観山筆「奇襲」 [6～7]
〈友の会〉秋の見学会報告 [7]
〈ふれあいミュージアム〉「日本美術ってなあに？」 [7]
喫茶室ニホOPEN [8]
〈おしらせ〉募集・貸館情報 [8]

表 紙：棟方志功 《門世の柵》 1968年　棟方志功記念館蔵

東北経鬼門譜〈1937年〉棟方志功記念館蔵

［ふるさと知事ネットワークによる美術館交流事業］

棟方志功

生誕一〇〇年記念

－青森県立美術館・棟方志功記念館コレクションによる－

平成26年

2月21日㈮～3月23日㈰

休　館　日◇3月3日㈪　会場◇福井県立美術館
開館時間◇午前9時～午後5時（入場は午後4時30分まで）
観　覧　料◇一般・大学生 200円（30名以上の団体は2割引）、高校生以下、70歳以上、障害者手帳等をお持ちの方は無料
主　　催◇福井県立美術館
協　　力◇青森県立美術館、棟方志功記念館

＊　＊　＊　＊

◎担当学芸員によるギャラリートーク
3月2日㈰、3月9日㈰　各午後2時～　展示室にて
※要本展チケット

◎同時開催「生誕100年記念展　小野忠弘の軌跡」
※本展観覧券にてご覧いただけます

雑華山房主人像図〈1942年〉
青森県立美術館蔵

華狩頌〈1954年〉棟方志功記念館寄託

宇宙頌（南北の柵／東西の柵）〈1949年〉〈1953年改刻〉棟方志功記念館寄託

わだばゴッホになる

御吉祥大辨財天御妃尊像図〈1966年〉青森県立美術館蔵

雪国風景図〈1924年〉青森県立美術館蔵

［自立と分散で日本を変える ふるさと知事ネットワーク］

地勢の異なる地方の13県（青森、山形、石川、福井、山梨、長野、三重、奈良、鳥取、島根、高知、熊本、宮崎）が、新しいふるさとの創造に向けて、「ローカル・アンド・ローカル」の発想の下、人や地域の新しいネットワークをつくり、地方自治の新しいモデルをつくるための活動を行っています。

二菩薩釈迦十大弟子〈1939年〉棟方志功記念館蔵

福井で35年ぶりの開催

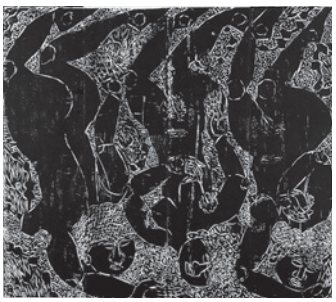
1903年青森に生まれた棟方志功は、18歳の時、北斗社の画家※小野忠明にゴッホの「ひまわり」の複製画を見せてもらい深く感動したことから、「わだばゴッホになる」と画家になることを決意します。同氏より油絵の道具一式を譲り受けて油絵を描きはじめますが、その後版画と出会い、自ら「板画」と命名した木版による独自の表現を追求していきます。

仏教や同時代の詩・物語などを題材にした既存の版画の概念を覆す独特のエネルギーに満ちた板画は、55年のサンパウロ・ビエンナーレで版画部門最高賞を、翌年のヴェネツィア・ビエンナーレで国際版画大賞を受賞するなど、国際的な評価を確立。その後も75年に72歳で亡くなるまで旺盛な創作活動を続け、板画のほかに油彩画、倭画など多くの作品をのこしました。

本展では、「二菩薩釈迦十大弟子」「湧然する女者達々」「宇宙頌」「華狩頌」など棟方板画の代表作を中心に、初期の油彩画「雪国風景図」や大作「東北経鬼門譜」、独特の表現による美人画「門世の柵」、最大級の倭画「鷲栖図」など、青森県立美術館と棟方志功記念館が所蔵する貴重な作品の数々を展示し、棟方志功の創作の軌跡と棟方芸術の魅力をひろく紹介します。

※小野忠明は小野忠弘（福井を拠点に国際的に活躍した現代美術作家）の実兄

棟方志功〈1942年頃〉

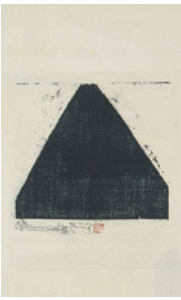


湧然する女者達々（没然の柵／湧然の柵）〈1953年〉棟方志功記念館蔵

花矢の柵〈1961年〉青森県立美術館蔵

鷲栖図〈1971年〉青森県立美術館蔵

あおもりはの柵〈1970年〉
棟方志功記念館蔵



黒富士の柵〈1965年〉
青森県立美術館蔵

生誕100年記念展

小野忠弘の軌跡

平成26年2月21日(金)～3月23日(日)

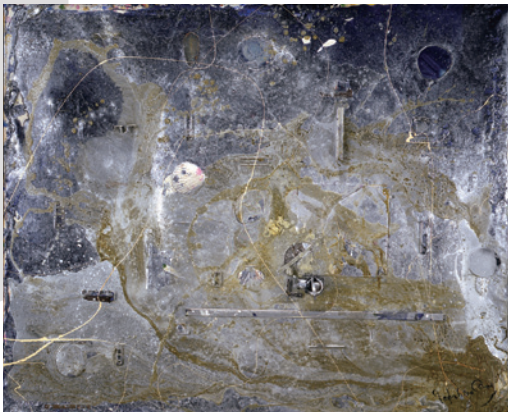
休　館　日◇3月3日(月)
会　　場◇福井県立美術館
開館時間◇午前9時～午後5時（入場は午後4時30分まで）
観　覧　料◇一般・大学生 100円（30名以上の団体は2割引）
高校生以下、70歳以上、障害者手帳等をお持ちの方は無料
※同時開催の「生誕110年記念 棟方志功展」観覧券をお持ちの方は無料
主　　催◇福井県立美術館　　協　　力◇青森県立美術館

＊　＊　＊　＊

◎担当学芸員によるギャラリートーク
3月15日(土)、3月21日(金・祝)　各午後2時～　展示室にて
※要本展チケット

無題〈1950年代〉青森県立美術館蔵

影の部分〈1958年〉青森県立美術館蔵


BLUE〈1994年〉青森県立美術館蔵

1913年青森に生まれた小野忠弘は、同郷の版画家棟方志功に「おまえは俺より絵がうまいな」と言われたことなどをきっかけに美術家を志し、2年間の朝鮮放浪や東京美術学校で彫刻を学ぶなどした後、42年に福井の住人となります。以降同地を離れることなく、2001年に没するまで約60年間にわたって超人的ともいえるヴァイタリティーを持った制作活動を繰り広げました。廃棄物を利用した独創的な半立体作品とその独特の造形意識は、59年のサンパウロ・ビエンナーレや翌年のヴェネツィア・ビエンナーレなどの国際的な舞台において高い評価を受けました。

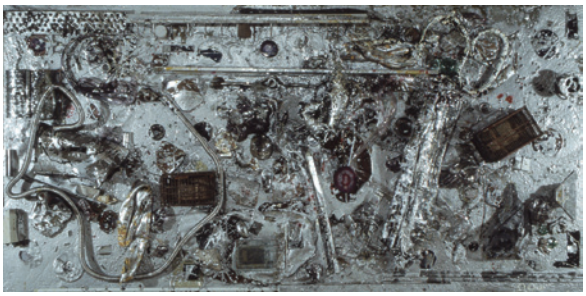
85年には福井県立美術館においてそれまでの画業を回顧する「小野忠弘展」が開催され、80年代後半からは、50年代に制作した半立体作品と60年代中盤から80年代にかけて追求した平面的な絵画表現が融合したかのような強い存在感を持った作品を次々と発表しました。

小野忠弘は80歳を超えてから「自らが収集してきた美意識の結集化とそれらの境界の探求」を試み、この意識を《BLUE》や《Silver》といったシリーズで表現し続けました。小野はこれらの作品群によって、ジャンク・アートの範疇で語られてきた従来の作風を超克し、全く独自の世界を確立したといえるでしょう。

本展では、《無題》や《影の部分》など青森県立美術館が所蔵する初期の貴重な油彩画から、《BLUE》《Silver》など晩年の傑作群までを一堂に展示し、小野の創作活動の軌跡を紹介するとともに小野忠弘の表現の深層に迫ります。

無題（《BLUE》シリーズ）〈1995年頃〉福井県立美術館蔵

アラカルト〈2000年〉
福井県立美術館蔵


無題（《Silver》シリーズ）〈1999年頃〉福井県立美術館蔵

「小野忠弘のレアリティ'96」展での小野忠弘〈1996年〉

三内丸山遺跡学術調査時の
小野忠明（右）と棟方志功（左）

※小野忠弘の実兄で若き日の棟方志功に絵を指導した小野忠明（画家、考古学者）の版画作品も併せて紹介します。
※棟方志功は小野忠明、忠弘と生涯にわたって親交を持った。棟方は東京美術学校時代の小野忠弘の下宿や富山に疎開中福井に移住していた小野忠弘宅を度々訪れ、芸術論をたたかわせたり作品の意見を求めたりしている。1948年には「福井大震災救援棟方志功小品板画展」を開き救援につとめるなど、棟方と福井の縁は深い。

小野忠明　無題〈制作年不詳〉
青森県立美術館蔵

《イベント報告》

生誕150年・没後100年記念「空前絶後の岡倉天心展」

2013年11月1日(金)～12月1日(日)
主催　福井県立美術館、読売新聞社、美術館連絡協議会
共催　福井放送株式会社
協賛　ライオン、清水建設、大日本印刷、損保ジャパン
特別協力　東京芸術大学大学美術館

Facebookではブブ広報部長、助手のミニブブが活発な広報活動を行いました

平成25年は福井にルーツを持つ思想家で美術指導者の岡倉天心の、生誕150年・没後100年という記念年にあたることから展覧会が開催されました。天心の両親の出身地は福井であり、福井との関係は深いと考えられていましたが、それを実際に家系図や福井藩関係資料、作品で明示する福井ならではの展示となりました。

また、天心の師・アーネスト・フェノロサ旧蔵の近代日本画黎明期の傑作や、重要文化財や新発見を含む天心周辺の作家たちの名品が一堂に会するほか、弟子たちの渡米・渡欧中の作品や天心の英文著作、アメリカ側の資料などによって、多分野に渡る天心の活躍を紹介しました。

＊

◎国際シンポジウム

「岡倉天心　―欧米における東洋文化思想のひろがり」

[日時] 11月2日(土)　13時30分～16時30分
[場所] 福井県国際交流会館　多目的ホール
[講師] 手塚雄二氏（福井県立美術館特別館長 日本美術院同人・理事）／古田亮氏（東京藝術大学大学美術館准教授）／フェリース・フィッシャー氏（フィラデルフィア美術館東洋美術部長／ルーサー・W.ブラデー日本美術担当学芸員）／清水恵美子氏（茨城大学人文学部・大学教育センター非常勤講師／五浦美術文化研究所客員所員）

このシンポジウムは明治時代に思想家、行政官、美術指導者、美術史家等々、国内外で活躍した岡倉天心の多くの業績の中から、19世紀に東洋文化思想が欧米に広がっていった過程において、天心やその師・フェノロサの果たした役割に焦点をあてるものとなりました。紹介されたエピソードのなかには、天心が唯一無二の存在であったためボストン美術館での給料が大リーグのイチロー級であったという話や、近年東京芸術大学の芸術祭で手作りされた3メートルの天心神輿が大きすぎて電線を突っ切った話などもあり、会場にどよめきと笑いが起こっていました。

※シンポジウムの詳細は後日、記念誌で紹介します。

＊

◎講演会

「岡倉天心と妣（はは）の国・福井」

[日時] 11月23日（土・祝）　14時～15時30分
[場所] 当館講堂
[講師] 鍵岡 正謹氏（美術館連絡協議会理事／岡山県立美術館館長）

幼いとき母“この”を亡くした天心の“母恋い”の物語を、天心が晩年に執筆した詩劇『白狐』を絡めてお話いただきました。『白狐』は天心直筆の音楽のための三幕の“妖精劇”で狐が人間の子どもを産むものの、狐の正体がばれて森に帰っていくという日本人にとって馴染み深い話です。この詩劇が実は母恋物語の側面を持っていることを、歌舞伎や人形浄瑠璃の『蘆屋道満大内鑑』の子別れの場面や、天心の弟子たちの作品から導き出していきました。また劇中で繰り返されるフレーズ「南無や大悲の観音さまよ」にあるように観音信仰、女性信仰がもう一つのテーマとなっている背景を、天心が古社寺調査の際の観音のスケッチや、狩野芳崖の「悲母観音」等から考察しました。

天心が育った環境については、父が経営していた横浜の旅館・石川屋が、長州の伊藤博文や井上馨がイギリスに向かう前に泊まったところではないかといわれており、船旅の人の宿であったであろうということ、東京に出てからも天心の父覚右衛門を頼って福井の人間が上京しており福井とのつながりが強かったことが紹介されました。

この他にも以下のイベントが行われました。

◎担当学芸員によるギャラリートーク

[日時] 11月9日(土)、16日(土)　各日16時～17時

＊

◎学芸員トークサロン
～担当学芸員による展覧会裏話～

[日時] 11月16日(土)、23日(土)　各日18時～19時
[場所] 当館喫茶室「ニホ」

＊

◎見どころ解説会

[日時] 11月1日(金)を除く金曜日、4日(月・祝)、30日(土)
各日11時～11時30分、14時～14時30分
11月9日(土)、16日、23日(土・祝)　11時～11時30分
[場所] 当館講堂

＊

◎美術館ナイトミュージアム
～越前和紙の行燈によるライトアップ～

[日時] 11月16日(土)、22日(金)、23日(土)、29日(金)、30日(土)
各日17:00～20:00　※雨天時は中止、短縮しました。
[場所] 当館正面玄関前

＊

◎子育てママパパ優先鑑賞時間

[日時] 11月24日(日)・30日(土)・12月1日(日)

通常午前10時開館のところ、小さなお子様をお連れの方が優先的に鑑賞できる時間帯として、特別に午前9時から開館しました。

＊

◎お茶会「天心記念呈茶」

[日時] 11月24日(日)　10時30分～16時
[協賛] 一般社団法人　福井茶の湯同好会
[場所] 一階エントランスロビー

一杯の茶に深い思想を見いだした岡倉天心を偲んでお茶会を開催。天心の落款を転写して作陶された茶碗や、茨城県五浦の六角堂をイメージして作られたじょうよ饅頭「天心の華」が用意されました。

開会式の後、フィラデルフィア美術館東洋美術部長のフィッシャー氏から所蔵作品の解説をしていただきました。

国際シンポジウムの特別講演　手塚雄二特別館長

講演会にて　鍵岡正謹氏

学芸員トークサロン

下村観山筆「奇襲」

この作品は岡倉天心の指導の下、近代日本画の発展に貢献した下村観山（1873–1930）の作品です。能の小鼓の家に生まれた観山は、出生地の和歌山県から上京した後、狩野芳崖や橋本雅邦に入門し、伝統的な狩野派の技法を学びました。明治22（1889）年、東京美術学校に入学した観山は大和絵に傾倒し、絵巻等の古画模写を通じて古典を学んでいます。また明治30年代には、色彩の研究を主な目的として渡英し、ラファエロなどの名画を模写するなど意欲的に学習し、生まれ持った画才を開花させていきました。昨年－平成25（2013）年－は、そんな観山の生誕140年という節目の年であり、また師である天心の生誕150年記念も重なって、各地で画家を回顧する展覧会が開催され、観山芸術へ触れる機会に恵まれました。本図も当館開催「空前絶後の岡倉天心展」へ出品された作品で、多くの近代日本画の至宝とともに会場を彩りました。しかしながら、これまで本図に言及した研究は無く、作品の詳細は明らかにされていません。ここでは簡略ながら本図の概要、魅力についてお伝えします。

下村観山筆「奇襲」
福井県立美術館蔵
直径114.0cm、絹本着色、一幅

本図は、その作風、落款印章から、明治中期の制作として考えられています。直径114cmの円形大画面は当時の画壇においても極めて珍しく、トンド形式（西洋美術における円形画や円形浮彫）の絵画を彷彿とさせます。（観山はラファエロの「小椅子の聖母子」の模写を水彩画で写していますし、ラファエロの図版は早くから明治の日本で流布しており、観山も渡英前から見ていた可能性もあります）さて主題については、箱書に観山自身の筆で「奇襲」と記されているだけで、これまで物語の詳しい内容はよくわかりませんでした。そして今回、本図が『源平盛衰記』の巻20巻「八牧夜討事」に取材していることが明らかになりました。治承4（1180）年8月17日、源頼朝の挙兵に加わった源氏方の武将・加藤景廉が、伊豆目代・山木兼隆へ奇襲をかける場面で、兜をおとりにして、襖の後ろに隠れる敵の出方を待つ緊迫した状況を描いています。画家は襖から帯を僅かに覗かせることによって敵の存在を暗示させています。また円形の画面からわざと景廉の左足を出すことによって、力が画面の外へと逃がされ、一歩一歩力強く進むのではなく、慎重に歩を進める微妙なニュアンスが巧みに描写されています。コントラストの強い明暗表現（光と影）、そして金属など素材の質感の再現を目指した写実の精神は、観山の西洋絵画学習の一端を示し、現実的な空間、立体感の表出によって、説得力が増し、物語の可視化を支える役割を担っています。

（挿図1）菊池容斎『前賢故実』第7巻のうち「加藤景廉」

本図の図様は、菊池容斎の『前賢故実』第7巻のうち「加藤景廉」（挿図1）から翻案されたものとして考えられます。人物の向きは異なりますが、長刀の先に自らの兜を掛けて先へと伸ばす図様は共通します。明治維新後では『前賢故実』に大きな影響を受けた月岡芳年も同主題の版画を残しており、後世では　安田靫彦が同じ説話を典拠としながらも、挙兵時の頼朝を白描風の清雅な表現でまとめています。容斎や芳年の作品と比べると、観山は物語を最も忠実に絵画化していることが指摘できます。たとえば長刀にみえる銀の小蛭巻（長刀の柄を革や金属などで等間隔に巻いたもの）、法螺貝の目貫（挿図2）、そして緋縅の鎧は、原文の記述通りであり、ここには物語の細部まで注意を払い、具体的に再現する画家の姿勢が認められます。特にこの長刀は、流罪の際に頼朝が故・源義朝（頼朝の父）の秘蔵の物をわざわざ請い譲り受けたもので、頼朝は奇襲の前に景廉へ与えました。加えてこの「銀ノ蛭巻きシタル小長刀」は、『平家物語』において清盛から頼朝への政権交代を象徴するモチーフとして機能しており、それを画面へ描出している点は見逃せません。これは靫彦が描いた「源氏挙兵（頼朝）」（1941年、京都国立近代美術館）にも同様に描かれており、つまり画家たちはこの長刀を物語の重要モチーフとして、意識的に画面へと登場させています。これは画家の物語に対する深い理解と正しい解釈によって支えられています。

（挿図2）「奇襲」部分拡大

さて画家が本主題を選んだ背景には、明治中期における歴史画流行という風潮がありました。国家としての体制が整いつつあった時期において、視覚的に国民意識を訴える歴史画は画壇のみならず、多方面から求められました。なかでも源平に取材した作品は多く、観山自身「熊野観花」(1894年、東京藝術大学)、「嗣信最期」(1897年、東京藝術大学)や「大原御幸」(1908年、東京国立近代美術館)など『平家物語』に取材した作品を残しています。そのなかでも本主題は、頼朝が挙兵して緒戦という大事な戦における景廉の活躍を伝える武勲譚であり、長刀に兜を掛けて敵を欺くという説話自体の面白さが好まれ、多くの画家によって取り上げられたのでしょう。このように、本図は時代の香りを十分に感じさせる絵であり、同時に観山の西洋美術学習を垣間見ることのできる魅力的な作品といえるでしょう。

(学芸員　椎野晃史)

福井県立美術館 友の会

〈平成25年度 秋の見学会〉

日時◎平成25年10月1日(火)～2日(水)

美術館友の会では、春と秋の年2回、県外の美術館等の展覧会鑑賞を主な目的とした旅行会を開催しています。今年の秋の見学会では、2日間かけて大阪府、兵庫県、徳島県の美術館を巡りました。国立国際美術館では、フランス国外で展示されることが非常に稀な、フランス国立クリュニー中世美術館の至宝《貴婦人と一角獣》を鑑賞しました。次に訪れた神戸市立博物館では、ロシアのプーシキン美術館に受け継がれてきたフランス美術の優品を堪能しました。翌日は、西洋名画を陶板で再現した展示で有名な大塚国際美術館へ。昨年当館に於いて開催された「ミケランジェロ展」にも下絵が出品され、話題を集めた「最後の審判」の原寸復元に圧倒されました。西洋美術に特化した今回の見学会では、参加者の皆様から喜びの声をたくさん頂戴しましたので、一部紹介します。

大塚国際美術館において

国立国際美術館において

◎「貴婦人と一角獣展」…表題から受ける印象に反して、一角獣、背景のライオン、豹、兎、犬、鳥全てが愛らしくあどけない動きがあり、更に植物たちがその雰囲気を醸し出しているようで大きな壁画のタピスリーに大変感動しました。次にプーシキン美術館フランス絵画300年展では、大木であるジャカランタの薄紫色の花もきれいですが、モネの「陽だまりのライラック」のピンクにとても感銘を受けました。

◎お天気が素晴らしく美術館を3館も巡れて、本当に幸せな2日間でした。テレビ等で見ていた「貴婦人と一角獣展」も「プーシキン美術館展」もその時代の美術の素晴らしさに感心し、大塚美術館の取り組みのスゴさに目を見張る4時間でした。

〈ふれあいミュージアム〉「日本美術ってなあに?」

(開催日:平成26年1月24日(金)、31日(金))

担当学芸員:椎野晃史

子供たちに本物の美術に触れてもらう機会を提供するため、平成18年度から、県立美術館の収蔵品を学校等へ出張展示・解説する「ふれあいミュージアム」事業(所管:県文化振興課)が実施されています。(今年度は13か所の学校等で開催)

「日本美術ってなあに?」と題して、美浜町美浜中学校(81名)と、小浜市立小浜中学校(60名程度)、福井県立足羽高等学校(20名)、福井県立福井東特別支援学校月見分校(20名)を対象に出前授業が行われました。日本美術の魅力について、パワーポイントで日本美術の名品を映写して解説し、実際に掛け軸や浮世絵に触れるワークショップもしました。生徒たちは実際に掛け軸を掛けたり、巻いたりする体験を通して、より日本美術に親しむことが出来ました。

西洋美術に劣らない日本美術の魅力をパワーポイントでわかりやすく説明。

教材用の掛け軸を実際にかけて、上手く巻けるか**挑戦!**

美術館 喫茶室 ニホ

OPEN!

About

平成25年11月1日から美術館に新しい喫茶室が誕生しました。美術館喫茶室ニホは店主の手作りスイーツや豊富なドリンクメニューを提供しています。心地の良い音楽が流れる店内には、ぬくもりを感じる家具を置き、また喫茶室の外には、小庭があって鳥たちの憩いの場になっています。

Contact

美術館喫茶室ニホ

open: 9時～19時　closed: 月曜日
tel: 0776-43-0310
address:
〒910-0017 福井市文京3丁目16-1
福井県立美術館　正面左手

※美術館が休館でも、月曜日以外は営業いたしております。

Recommended

福井の冬定番・水ようかんと黒豆きなこ＆アイスをトッピングした「水ようかんパフェ」がおすすめです。チョコレートアイスと水ようかんの意外な組み合わせがやみつきです。店主おかもときょうみさんおすすめのホットドリンクはウインナーコーヒー。寒い冬にはピッタリの温かい飲み物で、ゆっくりとした時間をお過ごし下さい。

お知らせ

平成26年度
実技講座受講生の募集

福井県立美術館では「日本画」「洋画」「素描（デッサン）・水彩画」の基礎講座（4～6月・10回）、専門講座（7月～翌年2月・25回）の受講生を募集します。

～詳細は当館に備えてある募集要項やホームページをご覧ください～

各講座／定員 20名

◎募集期間
- 基礎講座　3月1日(土)～20日(木)まで
- 専門講座　5月1日(木)～31日(土)まで

平成26年度 会員募集のお知らせ

福井県立美術館 友の会

年会費	一般会員 2,000円／家族会員 4,000円／特別会員 10,000円
特典	①展覧会　●企画展無料入場券配布（一般会員1枚、家族会員3枚、特別会員8枚） ●美術館主催・共催展2割引 ●テーマ展無料 ●企画展鑑賞会（定員20名） ②友の会ニュース（随時）、美術館だより（年4回ほど）送付 ③ミュージアムグッズ2割引（常設展のみ） ④実技講座、美術館見学会（年2回）への参加［実費負担］
申し込み	3月1日以降

福井県立美術館 ボランティアの会

年会費	1,000円（通信費）
入会資格	①美術及び美術館に関心をお持ちの方 ②高校生以上 ③月2回（各回半日程度）以上活動可能な方
活動内容	①インフォメーションでの案内・情報提供 ②展覧会の会場監視 ③美術関係情報の収集・整理

◎3月の休館日について

展示替え、館内メンテナンス等のため、次の日は休館とさせていただきますのでご了承ください。
3月3日(月)、24日(月)、25日(火)、31日(月)

貸館情報 [3/1~3/30]

3/5 ～ 3/9	福井大学教育地域科学部 美術教育サブコース卒業・修了制作展
3/13 ～ 3/16	第48回福井造形展
3/13 ～ 3/16	第15回茂実会展
3/19 ～ 3/23	第20回記念玲風会日本画展
3/19 ～ 3/23	第14回日象会福井支部展
3/21 ～ 3/23	第10回藤島高校書道部展
3/26 ～ 3/30	田中隆盛油画展
3/26 ～ 3/30	2014 福井一陽展
3/27 ～ 3/30	土田なよ子日本画展「菜」
3/28 ～ 3/30	第33回鳳友会展

本誌は再生紙を使用しています。

編集／発行：福井県立美術館　〒910-0017 福井市文京3丁目16-1　tel.0776-25-0452　印刷：河和田屋印刷株式会社　発行日：平成26年2月19日　14.02.20220